



けましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

船越税理士事務所一同



「年男です！」船越

2020年の干支は「庚子（かのえ・ね）。干支とは「十干」と「十二支」を組み合わせたもので60通りあるらしく、子年生まれの私は、60年かけて干支を一周して還暦を迎えました。若い頃は60歳なんて、おじいさんだと思っていたのに、実際にその年になってみると、なんと自分は落ち着きがなく、重みのないオッサンなことかと反省するところです。還暦を迎えた人→貫禄ある人→自信を備え、余裕あふれる人とはならないようです。

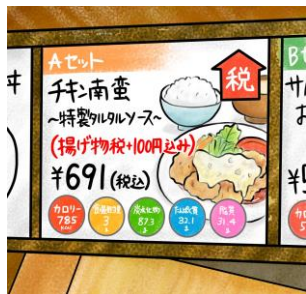
ということで、ここはひとつ神頼みで、そういった人になろうと思ひ、お正月に伊勢神宮に初詣に行ってきました。が、すごい人出で、後方の人達が気になり、じっくりと参拝することができませんでした。そんな場面で、人を気にせず、どっしり構えて手を合わせられるようになることが、落ち着きと貫禄への第一歩だったのかもしれない。そこで、今年こそは両者を備えた大きな人間になろうと神前に誓いを立てた新年でした。



知っとこ! 「税務のマメ知識」

【健康経営の一環として「揚げ物税」】

人手不足が叫ばれる中、できるだけ働きやすい環境を整えて社員を少しでも長く健康に勤められるようにと、工夫を凝らした福利厚生に力を入れる企業も多くなりました。インターネット関連サービス大手のヤフー株式会社では、社員の健康増進に役立てるために独自の税を導入したそうです。その名も「揚げ物税」。これは社員食堂で提供する揚げ物料理の一部につ



いて100円値上げするというものです。一方、魚料理については「お魚還元」として150円値下げしました。例えば、チキン南蛮定食は591円から691円に、サバのみそ煮定食は693円から543円に。ヤフーの社内調査によれば、社員が昼食で脂質を取りすぎる傾向にあるという実態が判明し、それが多く含まれる揚げ物料理を

控え、よりヘルシーな魚料理を食べてもらおうという社員の食生活の改善を狙うことを目的にこの制度を設けました。ヤフーでは以前から「社員の健康は生産性の向上につながる」という「健康経営」に取り組んでおり「社員の健康は企業の繁栄にもつながる」という発想をもっていたそうです。値上げするだけでなく健康に良いメニューをお値打ちに提供することにより、社員の体と懐の負担を軽くして元気に長く働くことができる仕組み。このようなユニークな税制度は今後、多くの企業で導入されていくかもしれません。

今を生きる 先人の言葉

夢を見るから、
人生は輝く

オーストリアの音楽家であるモーツァルトの言葉。たとえかなわぬ夢であっても、日々の暮らしや気持ちにゆとりがあるからこそ見る事ができる。それが夢だ。

今さら聞けない 経済用語

今月の教えてキーワード：【国外財産調書制度】

富裕層が海外に有する資産について税務当局が年に一度、調書の提出を義務付けている制度のこと。国外送金等調書法に基づき 2014 年に導入された。対象となるのはその年の 12 月 31 日時点で国外に 5000 万円を超える財産（預金・不動産など）を持つ日本国内居住者で、当局は入手した情報をもとに申告漏れを見付けて追徴課税を行う。税率が低い租税回避地（タックスヘイブン）などを使った税逃れを防ぐことが目的のひとつ。



365 日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

今月の商売のヒント：【見えないたすきに込めた思い】

お正月の恒例行事のひとつといえば駅伝でしょう。箱根駅伝を見ないと新年になった気がしないという声をよく聞きます。箱根駅伝誕生のきっかけを作ったのは「マラソンの父」と呼ばれた日本人初のオリンピック・マラソンランナーの金栗四三（かなくりしろう）氏です。1912 年、金栗氏はオリンピックのストックホルム大会に参加するも結果は惨敗。日本の陸上競技の遅れを痛感し「日本のマラソンが強くなるためには長距離やマラソン選手を養成することだ」と考え、選手を一度に養成するために思いついたのが「リレー種目」だったそうです。東京高等師範学校の野口源三郎氏、明治大学の学生ランナーの沢田英一氏とともに「将来はアメリカ大陸横断を」という壮大な計画を立て、まず選手の選抜をするために関東の多くの大学と専門学校などに参加を呼びかけて対抗駅伝を行いました。コースは東京から箱根までの往復。1 校 10 人がたすきをつなぎ、2 日間に分けて完走を目指す。これが箱根駅伝の原型となり、翌年の 1920 年 2 月 14 日に記念すべき第 1 回東京箱根間往復大学駅伝競走が開催されたそうです。参加した大学は明治、早稲田、慶應義塾、東京高等師範（現筑波大学）の 4 校。第 1 回の復路と総合優勝は東京高等師範学校。往路を制したのは 7 時間 30 分 36 秒の明治大学でした。



結局、金栗氏たちのアメリカ大陸横断計画は実現しなかったそうです。しかし、マラソン普及に心血を注いだその思いは、箱根駅伝という形で今に受け継がれているのだと思います。金栗氏の情熱。母校の名誉。仲間への感謝。自分へのエール。金栗氏が手渡したたすきに込めた思いは計り知れません。「今までは商売をマラソンに例えていたけど、これからは駅伝でいきたい」と言った知人がいます。30 代で起業して、商売という長い道のりを一人、黙々と走り続けてきた彼は、70 歳を目前にした今、これからは次の世代に何を残していけるかを考えて商売をしたいそうです。何をやるかより、どうやるか。思いを込めた見えないたすきを手渡すために残りの人生をかけるそうです。

トナリの

本棚



【クジラアタマの王様】

「菓子に画びょう混入」というフェイクニュースにクレーム処理担当者として奔走する岸は、騒ぎの中で政治家とアイドルの青年と出会います。現実の世界を救うため、夢の中でチームとして戦うことになる 3 人。楽しく一気に読める一冊です。

船越税理士事務所

〒620-0054

京都府福知山市末広町 1-1-1 中川ビル 3 階

TEL:0773-22-3708 FAX:0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail: info@f-office301.com

皆様のご感想をお待ちしております◎◎◎◎◎◎